

よどじん

始業のベルがなると赤と青のスタイリッシュな車がにわかに動き出す。敷地内のコースには、信号機に標識、S字カーブにクランク。そう、ここは自動車教習所。笑顔で指導にあたるのは、この道35年のベテラン指導員。今月のよどじんは、

「交通安全の使者」

塚本ドライビングスクール

まつもと つね ゆき

松本恒幸さん



性に合わん、やめた

4月からの新たなスタートを控え、教習所には自動車免許取得をめざす若い教習生の姿が目立つ。コース上では、黄色いジャケットを着た指導員が身振り手振りを加えながら、熱心に指導している。その中で、ひときわにこやかに教習生に接する松本さんの姿を見つけた。

大学卒業後に大阪を離れ、一旦東京で服飾関係の職に就くも「性に合わん、やめた」とあっという間に大阪に戻ってきちゃう。「あんたこれからどうするの?」と諭す母親に対し、思案の日々を過ごす。そんな中、生まれ育った塚本の町にあり、自らも卒業した自動車教習所にふと目が留まる。小さい頃から車好きの父親が運転する助手席に座るのが大好きだった。

あっ、ここ良いかも__。
臆することなく飛び込んでみた。

ダメもとで叩いた扉だったが、運の良いことに、たまたま欠員が生じており、昭和54年に見事採用となった。



▲一つひとついねいに説明します

若い時は苦しかった

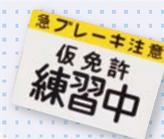
職場では穏和人柄から「つねさん、つねさん」と慕われる松本さん。指導力にも定評があり、受け持った教習生からの評判も常に上位ランキングされる。教習所には、年間を通じて18歳から60歳ぐらいまでの様々な年齢の教習生が集う。そして皆それぞれに個性があり、教科書通りの一様な指導方法ではなかなか事が運ばない。

「若い時は苦しかったです。生徒を自分の型にはめようと必死だったから。でも失敗と成功を何度も繰り返していくうちに、色々な指導の“ワザ”を身につけることができました」

先生、免許取れたよー!

教習で一番肝心なのは教習生の「気持ち」をどう高めていくか、と話す松本さん。限られた教習期間での焦り、前回の失敗からの萎縮、日常生活での悩みに至るまで、皆それぞれに不安の種を抱えている。松本さんは開始早々に教習生の顔色、視線、仕草を観察し、その不安を見抜く。「始まって5分が勝負です。どうやってこの教習に気持ちを向かせるか。そこで決まります」

免許取得という目標に向け、生徒とともに悩み、成功を喜び、長いようで短い同じ時間を過ごす。この仕事をしていて何より嬉しいのは、教習所を巣立っていった生徒たちが忘れた頃にふらっとやってきて



交通安全の種を育む

